

ERE information

Vol. 5 2004年5月10日発行

発行 / 特定非営利活動法人 日本経済学教育協会・事務局 発行責任者 / 松崎 英樹
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町3番21号 電話 03 3267 - 4819

Contents

- ▶ 『 E R E 』 で単位認定 / 新潟産業大学
 - ▶ 大学対抗戦の参加サークル募集
 - ▶ 委託会場方式のご案内
 - ▶ 応募者総数が5,000名を突破
 - ▶ E R E 活用事例 (新潟大学ERENet)
 - ▶ 受験者の声
 - ▶ 事務局からご連絡
-
-

▶ 『 E R E 』 で単位認定 / 新潟産業大学

2004年度より新潟産業大学経済学部では、『 E R E 』受験による成績結果をもとに、認定科目の単位の取得を認めることを決定した。認定科目は、全履修科目のうち、基礎科目であるミクロ経済学・マクロ経済学等を中心に、 E R E の出題科目である「ミクロ経済学・マクロ経済学・財政学・金融論・国際経済・統計学・時事経済」に対応を考慮し、学部決定されたものです。認定単位数は、受験1回の成績につき、ランクCの場合は合計10単位以下、ランクB以上の場合には合計20単位以下となっています。なお、この制度は第6回『 E R E 』より適用されます。

▶ 大学対抗戦の参加サークル募集

日本経済学教育協会では、2004年7月実施の第6回 E R E より、「 E R E ミクロ・マクロ」において、各大学の学生チームの大学対抗戦を実施いたします。経済学を学ぶうえで基礎科目となるミクロ経済学・マクロ経済学の基礎知識習得において、ライバルを学内に限定せず持つことにより、その水準を全国的に引き上げることを目的とするものです。参加希望のサークル (またはゼミ) は、9頁の実施要項をご参照ください。

なお、第5回 E R E におきまして、慶應義塾大学と早稲田大学の経済サークルが、自主的に早慶戦を行いました。早稲田大学は「 E R E ミクロ・マクロ」、慶應義塾大学は「 E R E 」での受験でしたが、総合得点で早稲田大学が1,390点で、1,170点の慶應義塾大学を上回りました。両校での個人最優秀者は、早稲田大学の安達剛さんでした (380点、全国ランク3位)。

▶委託会場方式のご案内

本誌前号（2003年12月19日発行）におきまして、試験会場変更のご案内をさせていただきましたが、今回、委託会場方式についての詳細が決定いたしましたのでご案内をいたします。

委託会場方式とは、『ERE』『EREミクロ・マクロ』の受験申込に際し、10名以上で申込をする団体が下記の各要件を満たすことにより、受験申込者が所属する学校や会社内に受験会場を設け受験することができる方式です。

1. 委託会場申込資格

原則として、学校・企業などの法人格のある団体またはゼミとします。

2. 申込要件

『ERE』『EREミクロ・マクロ』2種目の合計で10名以上の受験申込者を取りまとめ、団体として一括申込をしていただきます。

3. 申込方法

当協会にて申込専用の「願書データ作成用FD（EXCEL）」を用意しておりますので、ご希望の場合は、最寄りの営業スタッフが検定試験運営センターへ本FDをご請求ください。

所定のフォーマットに沿って受験申込者のデータを作成していただき、下記の5点を受付期間内に郵送してください。申込方法に関してご不明な点がございましたら、最寄りの営業スタッフが検定試験運営センターまでお問合せください。

団体受験申込書

FD

ブルーリスト（願書データをプリントアウトしたもの）

受験料の振込控（ATMの利用明細可、コピー可）

委託会場設置届出書

検定試験運営センター

〒162-8464 東京都新宿区市谷本村町3-21

TEL . 03 - 3267 - 4821 FAX . 03 - 3267 - 4999

4. 委託会場（受験会場）として試験の実施運営

協会が用意する会場（本会場：全国の主要都市17会場）以外に、委託会場としての登録と設置をしていただき、当日の試験運営を行っていただきます。なお、その際、取りまとめ手数料として受験料の10%、委託実施手数料として受験料の15%（合計で25%）をお支払いします。お支払方法は、受験料より差引入金していただくことで行います。

5. お問合せ先

試験全般についてご不明な点がございましたら下記までお問合せください。

特定非営利活動法人 日本経済学教育協会

〒162-8464 東京都新宿区市谷本村町3-21

TEL 03-3267-4819 FAX 03-3267-4998 e-mail:info@ere.or.jp

▶ 応募者総数が5,000名を突破

2004年3月7日(日)の検定試験で第5回になりますが、累計応募者総数が5,000名を突破いたしました。3割弱のリピーターが存在する本試験ですが、これらの人々は着実に成績を上げており、確実に経済学の実力をつけられていることが窺われます。将来、これらの方々が何らかのかたちで、その実力を実社会等において発揮されることが期待されるところです。

今回は、『E R E』『E R Eミクロ・マクロ』とも「ミクロ経済学」の成績が良好で、『E R E』では15点、『E R Eミクロ・マクロ』では7点、平均点が上昇いたしました。一方、『E R E』におきましては「国際経済」「統計学」の成績が、第1回より伸び悩む状況が続いており、ランクアップするための1つの障害となっているように思われます。『E R E』受験に際しては、基礎科目である「ミクロ経済学」「マクロ経済学」についてはもちろん、「国際経済」「統計学」の準備を十分にすることが望まれます。

《資料1》成績概要

	E R E	E R Eミクロ・マクロ
応募者数	420名	569名
受験者数	294名	406名
平均点	468.0点	196.6点
標準偏差	117.82点	64.39点
最高得点	890点	430点
最低得点	200点	30点

《資料2》科目別成績

『E R E』

科目	ミクロ経済学	マクロ経済学	財政学	金融論	国際経済	統計学	時事経済
配点	250点	250点	100点	100点	100点	100点	100点
平均点	124.9点	113.5点	59.4点	50.0点	33.6点	36.8点	49.8点
(前回)	110.1点	127.1点	63.3点	49.0点	49.8点	36.0点	51.3点
標準偏差	42.30	42.41	21.95	17.15	16.12	16.64	19.10
(前回)	41.27	42.14	21.07	20.66	18.67	16.26	19.19

『E R Eミクロ・マクロ』

科目	ミクロ経済学	マクロ経済学	財政学	金融論	国際経済	統計学	時事経済
配点	250点	250点	*****	*****	*****	*****	*****
平均点	104.1点	92.6点	*****	*****	*****	*****	*****
(前回)	97.6点	105.6点	*****	*****	*****	*****	*****
標準偏差	1384.72	1259.06	*****	*****	*****	*****	*****
(前回)	37.21	35.48	*****	*****	*****	*****	*****

《資料3》10名以上応募があった大学等

E R E		E R E ミクロ・マクロ	
新潟大学	36名	早稲田大学	31名
慶應義塾大学	24名	長崎大学	23名
東京大学	18名	新潟大学	19名
早稲田大学	15名	慶應義塾大学	19名
立命館大学	14名	立命館大学	19名
新潟産業大学	13名	新潟産業大学	17名
中央大学	12名	明海大学	15名
京都大学	10名	日本大学	15名
東京アカデミー	8名	高崎経済大学	14名
⑩熊本学園大学	6名	⑩中央大学	13名
⑪埼玉大学	5名	⑪宇都宮大学	12名
		⑪福岡大学	12名
		⑬広島修道大学	11名
		⑭和歌山大学	10名

《資料4》E R E 上位成績者

順位	大学・勤務先名	所 属	氏名（敬称略）	得 点	ランク
1			天 神 雄一郎	890	S
2	熊本壺溪塾学園	大学受験科・公務員専攻科	矢 住 勝 大	790	S
3	東京リーガルマインド	公務員制作部	（非 公 開）	760	S
4	京都大学大学院	農学研究科	山 口 道 利	750	S
4	ゼロワン 公務員ゼミナール	長崎校教務部	三 宅 英 雄	750	S
6			滝 沢 仁	740	S
6			落 合 宏	740	S
6	京都大学大学院	工学研究科	森 広 器	740	S
9	慶應義塾大学	経済学部	佐 藤 雅 之	730	A+
9	神戸大学大学院	経済学研究科	安 岡 匡 也	730	A+
9	東京大学	文科2類	竹 原 聖 史	730	A+
12	東京大学	農学部	中 川 雄 助	720	A+
13	東京大学	経済学部	山 本 剛 資	710	A+
14	東北大学	経済学部	（非 公 開）	700	A+
15	熊本学園大学	経済学部	門 秀 治	680	A+
16			笠 谷 崇 士	670	A+
16	京都大学大学院	工学研究科	諏 訪 亮 一	670	A+
18	立命館大学	経済学部	（非 公 開）	650	A
18			原 田 文 教	650	A
20	杉本パーキング		小 林 大 州 介	640	A
20			原 雅 信	640	A

《資料5》 E R E ミクロ・マクロ上位成績者

順位	大学・勤務先名	所 属	氏名(敬称略)	得 点	ランク
1	東京大学	教養学部・文科2類	高 中 佳 人	430	S
2	早稲田大学	法学部	依 田 翼	410	S
3	早稲田大学	政治経済学部	安 達 剛	380	S
4			松 室 徹 哉	360	S
4	神戸大学	経済学部	吉 松 正 秀	360	S
6	防衛庁	海上幕僚監部	岩 田 学	350	S
6	早稲田大学	政治経済学部	橋 本 吉 生	350	S
6			辻 村 啓	350	S
6	神戸大学	経済学部	鈴 木 崇 史	350	S
10	埼玉大学	経済学部	瀬 川 文 司 郎	340	A ⁺
10	早稲田大学大学院	経済学研究科	安 木 一 展	340	A ⁺
10	早稲田大学	政治経済学部	布 施 翔	340	A ⁺
13	学習院大学	経済学部	竹 内 瑛 理 子	330	A ⁺
13	埼玉大学	経済学部	浅 井 聡	330	A ⁺
13	和歌山大学	経済学部	楠 石 正 季	330	A ⁺
13	北九州市立大学	経済学部	川 原 記 和	330	A ⁺
13	長崎県立大学	経済学部	中 原 正 太 郎	330	A ⁺
18	早稲田大学	政治経済学部	中 島 順 一 郎	320	A ⁺
18	早稲田大学	政治経済学部	柴 田 稔	320	A ⁺
18	神奈川大学	経済学部	村 上 俊 男	320	A ⁺
18	名古屋大学	経済学部	山 本 倫 子	320	A ⁺
22			大 藪 亨	310	A ⁺
22			足 立 卓 也	310	A ⁺
22	中京大学	心理学部	犬 塚 良 明	310	A ⁺
22	関西学院大学	経済学部	川 本 陽 一	310	A ⁺
22	鹿児島大学	人文学科	櫻 井 芳 生	310	A ⁺

《訂正とお詫び》

本誌前号(2003年12月19日発行)の《資料4》『E R E』上位成績者、に誤りがありましたので訂正をさせていただきます。関係者の方々にご迷惑をおかけいたしましたことをお詫びいたします。

誤) 19位 慶應義塾大学経済学部 小林恭二 700点 A⁺

正) 19位 中央大学経済学部 小林恭二 700点 A⁺

ERE活用事例

新潟大学ERE-Net

ERENetとは：全国最大のERE受験者集団誕生

2002年12月、新潟大学で、卒業後の進路として公務員をめざす学生が中心となり「PMNet (Public Managers Net)」というサークルが誕生した。これは公務員採用試験の出題科目である法学・行政学・経済学等を中心に自主的に学習するサークルであった。

その後2003年4月、経済学学習にあたり経済学検定試験(ERE)利用にウエイトがおかれてきたことから名称を「ERENet」と改め、将来の進路にかかわらず社会科学を総合的に学習するサークルとなって今日に至っている。会員は男性20名、女性23名の計43名である(2004年4月現在)。

現在、EREの受験者数・学習機会とも全国最多の集団である。2004年度はミクロ、マクロ、統計学の自主学習会を通年で20コマずつ行うなど、ERE対策だけで75コマの学習機会を予定している。今後、社会科学総合学習やディベート集会も充実する予定である。

活動内容：第5回EREはこうして取り組んだ

本サークルでは多数のメンバーが第4回ERE(2003年10月実施)を受験したが、準備も不十分で、結果は思わしくなかった。そこで同月、サークルの体制を強化した上でカリキュラムを本格的に構成することとし、翌11月から気分を引き締め活動した。

同年度中に法学・行政学を含めて76コマの自主学習会をこなしたが、このうち特に第5回ERE(2004年3月実施)に向けては、26コマの対策学習会を行った。内訳は次のとおり。

ミクロ経済学： 14コマ(大学のミクロ経済学入門授業範囲と、ゲームの理論)

マクロ経済学： 10コマ(大学のマクロ経済学入門授業範囲)

応用科目ダイジェスト： 2コマ(金融論、財政学、統計学のERE頻出事項整理)

学習会は、担当者(原則2年生、一部1年生)が過去の出題傾向をつかんだうえで公務員試験教材などからあらかじめ宿題を出しておき、当日はその解説を中心に、参加者がディスカッション・質疑応答する形となった。担当者においては、深夜まで準備に追われることもままあった。

また、第5回ERE直前には「ミクロ模試」「マクロ模試」を実施した。これは学生自らが次の優先順位でEREの過去問を整理して出題したもので、それぞれ90分で50問を解く形式であった。

A： 学習会範囲内の問題

B： 知識タイプの問題(学習会では取り上げなかったが、解説を覚えておくと得なもの)

C： 取り組みやすい問題(上記以外だが、全国の受験者の正答率が高いもの)

特徴：入会審査とML活用でレベルを維持・向上

学習会の担当者割り当てなど、本サークルの活動は学生にとって苦労が多いが、あくまで自主サークルであるため、ゼミのように大学の単位は認定されない。しかし、本サークルへの入会希望者はあとを断たない。入会には本サークルの指導教授の研究室へ1人で赴き、自己アピールと将来の抱負を述べて許可を受けなければならない。これは自主性を重んじるためである。入会希望者が仲間といっしょに研究室のドアをノックしたのでは、その段階で出直しを強いられる。

本サークルではメーリングリスト（ML）を組んでおり、そこで学生が日常考えている社会問題を議論したり、他のメンバーの意見を求めることができる。ML上のディベートを通じて、経済理論に偏ることなく現実を実証的に分析する視点を養うことを意図している。

このMLをはじめ、本サークルを立ち上げからサポートしたのが新潟大学経済学部の吉田敏治教授である。吉田敏治教授は、深夜まで続く学習会準備やイベント準備に付き合いきめ細かい指導を行うと同時に、自らEREを毎回受験し、身をもって学生へ奮起を促している。



【学習会風景】

会員がみる「ERENet」、「指導教授 吉田敏治先生」

ここでは、「ERENet」、「指導教授 吉田敏治先生」について、学生の生の声を紹介する。

会員がみる「ERENet」

- ・経済学の能力を高めていきたいという向上意識の高い人が集まっている集団だと思います。
- ・ML上の時事ネタのメールは、人のいろいろな考え方を知ることができる場として貴重です。
- ・それぞれ目的意識をもった人たちが構成されている集団だと思います。公務員をめざす人もいればそうでない人もいますが、それぞれが自分をしっかり持っている人たちが構成されていると感じます。
- ・会員はほとんどが経済学部生で、サークル名のわりに法律を学んだり、MLを通じて意見交換したりしています。1・2年生が活動の主体で、まだまだこれからのサークルですが、他大学の経済学部生とは一味違います。

会員がみる「指導教授 吉田敏治先生」

- ・さまざまなことに親身になって相談にのってくださる信頼の厚い先生です。忙しい中、学習会にも参加して下さり、学生の理解が深まるようにアドバイスして下さるので、学習面でもとても頼りになります。
- ・中途半端なことに対しては、とことん厳しいです。しかし、それだけ組織全体、個人のことを熱心に考えてくれる先生です。新潟大学経済学部の教授のなかで、私たち学生の教育に対して一番熱心です。
- ・自分の役所での経験をもとに、ためになる話をたくさんして下さる先生です。また、面談などで話をさせていただくときには、自分の今後のあり方を考えさせられます。

▶受験者の声

熊本壺溪塾学園 矢住 勝大(やずみ かつひろ)さん 790点(Sランク)

<成績優秀者>受験者アンケートから抜粋

受 験：第5回『E R E』

受験の目的・動機：昨年末、かつて私が大学入試レベルの政治経済や地理を教えた子供たちからE R Eの存在を教えられました。そこで、今年3月7日(日)の試験日までの約2ヵ月間で、経済学部を卒業したわけではない私が、経済を専門的に勉強されている方々の水準にどこまで近づくことができるのか試したいと考えて、受験しました。また、2002年夏に国会議員政策担当秘書資格試験に最終合格して、一応、政治分野の基礎は勉強したという実感がありましたので、次は経済分野の基礎を勉強したいとの思いを抱いていたこと、さらに証券系シンクタンクの研究員として仕事をしていた頃に得た知識を整理し、新たな知識を増やしたいと考えたことも受験の動機です。

E R Eを受験された感想：まず、試験時間と出題数のバランスについてですが、3時間で100題の問題に取り組むため、ある一定水準以上の演算能力ないしは数的処理能力さえあれば、私のような専門家でない者でも専門家の方と互角の勝負に持ち込むことができる試験である、と感じました。このことは、厳密には“経済学の能力を客観的に評価する”という経済学検定試験の趣旨に反するのかも知れません。しかし、どんな人であっても成績優秀者の一角に進出できる可能性があることを意味しており、実はこの試験のひそかな魅力であろう、と思いました。

出題科目は、経済学の基礎的な内容を網羅しており、概ね適正であると思います。ただし、社会人の立場から意見を述べさせていただきますと、統計学を出題されるのであれば、それと同等かそれ以上に企業経営の現場で必要とされる、意思決定会計を含めた企業会計や経営学的側面の強い領域も、経済学と絡めて出題範囲にしていきたい、と思いました。

出題内容と難易度については、主に国家公務員 種・国税専門官・地方公務員上級職レベルの問題を中心にしながら、上は国家公務員 種・公認会計士第2次論文式試験のレベルから、下は国家公務員 種・地方公務員初級職レベルあるいは大学入試センター試験レベルまで適切に難易差をつけてあり、試験委員の先生方の工夫には頭が下がります。総合的に見て、ほぼ正しく実力差を反映できる問題であったと思われる。

後続する受験者へのメッセージ：まず、学生のみなさん方へ。国家公務員試験・公認会計士試験など遥かなる高みを目指すための第一歩として、経済学検定を受験しましょう。成績優秀者名簿に氏名が掲載される水準にまで学力を高めていくことが、難関を突破する際に経済学を得点源にできる点からみても、また“私には全国でも最上位にランクされる得意分野があるのだ”という精神面での優位を確保できる点でも有効に作用するはずです。

そして、社会人のみなさん方、とりわけ学生時代に勉強したくても勉強する機会に恵まれなかった方へ。誰にも過去を変えることはできません。しかし、自分自身の力で、自分自身の未来を変えることはできます。かつて経済学を勉強するだけの十分な機会に恵まれなかった方には、この経済学検定の受験対策として、基礎から経済学の勉強をやりなおし、“復活の狼煙”をあげることも一つの価値ある選択肢だと思えます。

事務局からご連絡

『EREミクロ・マクロ』の大学対抗戦 実施要項のお知らせ

1. 試験会場

原則、日本経済学教育協会が指定する全国17の本会場。

2. 参加資格

原則として、大学（専門学校も可）に所属する学生を主体とするサークルまたは団体で、5名以上9名以内を1チームとしてエントリーできるものとします。同一大学から複数のサークルが参加することや、同一サークルから複数のチームがエントリーすることはかまいません。また、チーム内に大学院生、教員を含んでもかまいません。

3. 対戦方法

「EREミクロ・マクロ」（2科目）の受験成績で判定します。

「ERE」（7科目）を受験した場合は、7科目の内、「ミクロ経済学・マクロ経済学」2科目の得点を抽出して判定します。

5名以上エントリーの団体戦とし、各チーム4位までの総合成績で順位を決定します。

4. 表彰

優勝したサークル（または団体）には、賞状と記念品（全員に図書券）を贈呈します。

5. エントリー費

無料。ただし、受験料は実費。

6. 参加方法

チーム毎に受験願書を取りまとめ、チーム名を明記の上、受験願書と「大学対抗戦受験願書申込書」を日本経済学教育協会大学対抗戦係宛にご送付ください（受験願書と「大学対抗戦受験願書申込書」は、係までご請求ください）。

「大学対抗戦受験願書申込書」は必ず控をとり、控は担当者が保管してください。

受験料は、合計金額を下記口座に一括して振り込み、a「大学対抗戦受験願書申込書」、b受験願書、c振込控（コピー可）の3点を大学対抗戦係宛に送付してください。

<振込先> みずほ銀行 神田小川町支店 普通預金口座 2008847
特定非営利活動法人 日本経済学教育協会

7. 締切日

一般応募の締切日と同日です。

8. 受験票

受験申込者の個人宛住所に送付します。

9. 成績通知書

受験申込者の個人宛住所に送付します。なお、チームの成績一覧を申込担当者宛に送付します。

10. 情報公開

各チームの順位・総合点・平均点等は、各チーム責任者の了解を得て、協会の広報誌等に公開します（了解を得ないで公開することはありません）。また、個人情報等を本人の了解を得ないで公開することはありません。なお、参加チームまたは個人への取材協力をお願いすることがありますので、その節はご協力をお願いいたします。

<協賛>

経済法令研究会 銀行業務検定協会 日本評論社

2004年度より実施月が変更されています。お申込にあたっては、下記実施要綱等にて確認し、お間違いのないようお願いいたします。

『E R E』実施要綱

実施回	第 6 回	第 7 回
試験日	2004年7月4日(日)	2004年12月5日(日)
試験時間	午後1時00分～午後4時00分	午後1時00分～午後4時00分
受験願書 受付期間	2004年4月19日(月)～ 2004年5月20日(木) 消印有効	2004年9月20日(月)～ 2004年10月22日(金) 消印有効
受験料	5,250円(税込)	
出題科目	ミクロ経済学/マクロ経済学/財政学/金融論/国際経済/統計学/時事経済	
出題形式	4択択一式/100問,1問10点,1,000点満点	
持込品	受験票,筆記用具(HBの鉛筆,プラスチック製消ゴム),電卓(ただし,金融計算電卓,関数・メモ機能付は不可),顔写真付身分証明書(学生証・運転免許証・パスポート等)	

『E R Eミクロ・マクロ』実施要綱

実施回	第 6 回	第 7 回
試験日	2004年7月4日(日)	2004年12月5日(日)
試験時間	午後1時00分～午後2時30分	午後1時00分～午後2時30分
受験願書 受付期間	2004年4月19日(月)～ 2004年5月20日(木) 消印有効	2004年9月20日(月)～ 2004年10月22日(金) 消印有効
出題科目	ミクロ経済学/マクロ経済学	
受験料	3,150円(税込)	
出題形式	4択択一式/50問,1問10点,500点満点	
持込品	受験票,筆記用具(HBの鉛筆,プラスチック製消ゴム),電卓(ただし,金融計算電卓,関数・メモ機能付は不可),顔写真付身分証明書(学生証・運転免許証・パスポート等)	

(注) 『E R E』のミクロ経済学・マクロ経済学と同一問題です。